

令和6年5月31日

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人若杉学園 幼保連携型認定こども園若杉幼稚園長 東山由紀子
学校法人若杉学園 幼保連携型認定こども園若杉幼稚園学校関係者評価委員会

1. 園の教育目標

1. がんばる子 2. 考える子 3. 思いやりのある子	自主及び自立の精神の芽生えを養い、「知育・体育・徳育」の調和のとれた人材を育成する。
------------------------------------	--

2. 本年度の重点課題(学校評価の具体的な目標や計画)

「それぞれの子どもの発達段階に合ったあそびを提供する」

3. 評価項目の取り組み状況・達成結果の評価

A:十分成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果は感じられなかった

		自己評価	学校関係者評価委員会	
評価項目	評価	取り組み状況及び成果	評価	意見
子どもをよく観察し、一人ひとりに対する理解を深める	B	・まずは、スキンシップを取りながら信頼関係を築いていくことを心掛ける。 ・行動を促す声掛けを意識的に少なくして、子どもの様子を見守ることに努めた。その結果、その子が何を考えどうしたいのかを感じ取ることができ、それを職員間で共有する	A	・担任との話から、家庭での子育てに必要なことについて考えるきっかけとなった。 ・全体を把握しながら個々を受け止め、個々に応じた対応をしていることがよく分かった。

	<p>ことで、個に合わせた対応ができ、子ども自身が自ら考え行動する姿が増えてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張っている姿や良い行動をしている姿を認め、言語化して伝えることで自信につなげ、自己肯定感を高めるようにしてきた。頑張っている姿や出来ていることを本人だけでなく、周囲にも伝えてきたことで、お互いを認め合えるようになってきている。 ・個人差が大きいことを踏まえ、集団としての達成目標だけでなく、個別の目標を決めて対応する。また、活動によっては、一斉ではなく時間差をつける対応もする。 ・学年間の教員全体での情報共有に努めた結果、子ども理解を深めることができ、個々への対応も統一することができた。その結果、安心して過ごすことができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任だけでなく、学年や園全体で子どもに対する情報が共有できていると感じ、安心した。 ・頑張っていることをその場で声にして伝えることの大切さを感じた。 ・情報共有のための時間確保に取り組んでいることが分かった。 ・個人差が大きくなってきている昨今、個々の目標や達成感を重視することはよい取り組みであり、集団としての目標と個人の目標があることが、すべての子の意欲を高めることにつながっていると感じた。 ・すべての子が、自分のすることを理解して行動できていると感じた。
<p>異年齢児とかかわれるようなあそびや時間の確保</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間帯や季節によって、園庭での遊びを取り入れてきた。それによって、異年齢児との触れ合いが多くなり、年長児の遊びを取り入れたり遊びに入れてもらったりする姿が増えてきた。 ・仲良しクラスで一緒におにぎりを食べたり、山登りをしたり、集団遊びをしたりする時間を積極的にとるようにしてきた。 ・他学年の保育を見学する時間を作る。取り組んでいる姿が刺激となり、「やってみたい」の意欲につながった。 ・異年齢児とかかわることで、年長者は小さい子の面倒を見ようとし、かつ、場面や相手に応じた適切な行動がとれていた。年少者は年長者の姿にあこがれの気持ちを抱き、その姿をまねようとする姿が多く見られた。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児との活動を子ども自身が楽しみにしている。 ・クラス以外でのかかわりを意識的に持ち、お世話したりしてもらったりすることで、子どもが成長していくと感じた。 ・生活の中で、自分自身が年上になったり年下になったりする経験を通しての成長を見守ってほしい。 ・見ることによって、次年度の活動や次年度への期待、自分自身の成長への期待が高まると重いので、異年齢児とのかかわりは、引き続き大切にしてほしい。 ・異年齢児とのかかわりにはプラスとマイナスの面があることを十分理解したうえで、計画しすすめていくことが必要だと考える。

<p>園の教育課程の編成・実施についての教職員間の再確認・共通理解</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムや行事への取り組みについては、子どもたちの様子を見ながら柔軟に対応してきた。そのための話し合いの時間を多くとるようにしてきた。その結果、担任が見通しをもって行動できる用意になった。 ・余裕のある時に他クラスに入っていくなどして、自分のクラスだけでなく学年全体の子の把握に努めてきた。 ・他クラスの保育の様子を適宜見せてもらうことで、クラスの状態や自分の保育についての振り返りができた。 ・担任と補助教諭、補助教諭同士の話し合いの場を設けるように心がけてきたが、時期によっては持てないこともあった。確実にとれるように調整していくことはもちろんであるが、取れないときの代替方法を考えていきたい。 ・月案や週案の共有を進めていきたい。 ・園全体で情報を共有する場が取れなかった。勤務時間があわないことを踏まえた対応が必要である。 ・預かり保育で残る子が増えていることを踏まえ、保育時間中で気になることがあった場合、預かり担当職員とも情報を共有する。預かり保育中の様子も含めた「個」の理解につながった。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任以外の先生から声を掛けられることは子どもにとって特別感があるようである。 ・担任だけでなく、全職員が同じ理解のもとで子どもたちに向き合っていると感じる。 ・共通認識を持つうえで、毎月のカリキュラム作成は必要なことだと考える。 ・園としての活動の目標は大切であるが、目の前の一人一人に対して必要なことを見極めていくことは、大切なことであると感じた。 ・目標を立てると共に進捗状況を把握しながら調整し見直していくことは大切なことであると感じた。 ・時間確保が困難ではあるが、それぞれが意見をもち寄り話し合うことは大切かつ必要なことであるので、上手に取り組んでいってほしい。 ・カリキュラムの立て方や期間等の設定は外からは見えにくく分かりにくいことであるが、子どもの成長を把握するためには、期間を区切った目標は必要である。 ・教職員全員が、同じように一人一人の子どもを理解して保育していることを感じている。
<p>満3歳児保育・2歳児保育の実施と地域の子育て支援の在り方について</p>	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて集団生活に入るといっても、保護者との関係づくりは大切であるので、担任と保護者だけでなく保護者同士がかかわれる機会が必要であると考え、場を提供した。 →2月の参観会懇談会お弁当パーティー ・りすりんご組での合同保育を取り入れる。 ・コロナ禍での子育てで不安が大きい保護者に対する支援は、今まで以上に丁寧に行っていく必要があると考え、プレ 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に体を動かしたり食事をしたりすることは、保護者同士をつなげていくことに効果がある。 ・一緒に食事をするすることで、どのようなものをどの程度食べているのかがわかり、よい取り組みであると考え。 ・職員が連携して、その日の様子に応じた活動声掛けをしていることがわかる。

		幼稚園や親子遊び、園庭開放で、在園児と一緒に遊ぶ機会を持つようにする。同じ年代の子の遊び方を見ることで子育て支援につながっていくと考え、会食の場も提供した。		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる分断もあったので、早くからの園への参加はよいことであるとする。 ・コロナの影響もあり、今までとは異なる環境で成長してきた子どもたちやその保護者にとっても、2歳児保育の重要性はひしひしと感じている。園がその発信拠点となってほしい。
適切な情報発信と保護者支援について	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HPやインスタグラム、動画を活用することで、園での様子を具体的に理解していただけたように思う。 ・送迎で顔を合わせることができる保護者とはこまめに話すことができたが、バス通園で園に来ることの無い保護者との会話が少なくなってしまう。対面で話せる機会を積極的に作っていく方法が必要である。 ・登園時に不安な表情を見せる場合、全職員で子どもだけでなく保護者にも声を掛ける。その際、誰が誰とどのようなやり取りをしたかの共有に努めた。 ・園での様子を伝えることに注目した結果、保護者の思いに寄り添うことができなかつたケースもあった。保護者が今、何を、どのように感じているかについて、当事者目線で対応していくことが必要である。 ・コロナが第5類に移行したことで、参観会や試食会も全学年実施する。就労している保護者の増加に伴い、参観会や個人面談の時期と回数については検討が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタで子どもたちの楽しい様子が見ることができた。 ・家での様子を聞くことをきっかけとして話題が広がっていけば、それが保護者支援にもなると思う。 ・通園バス利用園児は、先生と話す機会が少なく寂しい思いもあった。 ・良かれと思って伝えたことが裏目に出してしまうこともある。職員間の情報共有を万全にとったうえで対応していくことが必要である。 ・情報発信や共有は大事なことではあるが、そのこと自体が職員の負担増とならないような手立てを考えていくことは必要である。 ・保護者への正確な情報は子どもにとっても重要なことである。保護者とかかわることでより子ども理解につながり、保護者自身も自分の子どもを見直すことができる。
安全点検や教職員の安全対応能力の向上を図る	C	<ul style="list-style-type: none"> ・事故やけがにつながりそうなことは、その都度情報共有をする（ヒヤリハットの活用） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安全は日々の意識が大切である。様々な事案を想定しての訓練は良いことである。

	<ul style="list-style-type: none"> ・危険な行動をしがちな子についての職員間での情報を共有してきた。その結果、危険な行動をとる子の行動パターンの解読を進めることができ、事前に危険行動を回避することができるようになった。 ・なぜ危険なのかを、子どもだけでなく職員自身再確認するようにしてきたことで、意識して行動できるようになってきた。 ・避難訓練の想定を毎回変えることで、避難の方法についてその都度考えることができ、対応力強化につながった ・職員間の連携を取り合って見守ることに努めた結果、全体を見渡せるような場所に立ち、自分のクラスだけでなく、全体に注意を向けることができるようになった。 ・場面が変わる前後の人数確認が習慣となった。 ・バス乗車に関する連携ミスが多かった。特に、電話による連絡を確実に伝達するための方法を確立していく。 ・野生動物の出没情報により、対応方法の再考を促された。特に、近隣の小学校との連携は強化していかなければならないと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対応力強化のためにも、子どもが「止まって話を聞く」習慣を身に着けていることはありがたい。 ・人数が多いと連携ミスも出てくる。気のゆるみも起こりうることも前提に、対応していただきたい。 ・避難訓練や避難場所な確保についての周知があると、保護者の安心につながる。
--	---	--

4. 自己評価結果と学校関係者評価の結果を踏まえた、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症が第5類に移行したことで、前年度までのコロナ禍での取り組みも振り返りながら、さらに教育保育内容を見直してきた。 ・活動の見学を解禁としたことで、園での様子を間近で見えていただくことができた。園に足を運んでいただく機会が増えたことで、保護者同士がかかわることもできた。動画配信等でも園での生活の様子を知らせることができたが、直に子どもたちの姿を目にすることで成長を実感していただくことができた。 ・個人差が大きくなってきていることを踏まえて、集団としての達成目標だけでなく個別の目標も設定して対応したことは、すべての子の意欲を高めることにつながった。 ・頑張っている姿や良い行動をしている姿を認め言語化して、本人だけでなく周囲にも伝えてきたことで、お互いを認め合えるようになった。このことは、本人の自信となり自己肯定感を高めることにつながった。 ・時期や発達段階に応じた遊びの環境を構成しながら、一人で遊ぶ玩具と複数人で遊べる玩具を用意する。子どもが興味関心に応じて自由に選択できたことで、自分のしたい遊びに集中できるようになり、一人の得意を極められる時間や場所を確保することで、他児の興味関心を刺激し、意欲につながった。 ・密を気にせず園庭での活動を今まで以上に取り入れたことで、異年齢児との触れ合いが増え、遊びを介しての縦割りの活動ができるようになった。 ・カリキュラムや行事への取り組みについては、子どもたちの様子を見ながら柔軟に対応してきたため、子どもたちものびのびと活動にと取り組むことができていた。半面、そのための話し合いの時間やその内容を共有するための時間を確保することが困難であった。 ・継続して個人の成長発達に対する理解を深め、担当職員で情報を共有してきた。個の理解を深めることが集団を理解することにもつながり、時期や年代に合わせたクラス運営を常に意識することができた。 ・動画配信やInstagramによる園での生活の様子を見ていただいたり、預かり保育等を利用する保護者とお迎え時に会話したりすることで、より家庭との連携がよりスムーズになったと考えられる。一方で、園に訪れる機会の少ない保護者との情報共有がとりにくいことが現実となっている。 ・安全は日々意識することが大切である。園児のみならず職員も常に安全を意識して行動し、安全のための情報の共有が必要である。

5. 今後取り組むべき課題

◎教職員の資質向上

- ・子どもたちで遊びや生活を進めていくことができるようになってきているが、まだまだ、保育教諭の援助を必要とする場面も多い。どのような場面にどのような援助が必要かの見極めもしていきたい。
- ・全職員が、園の教育目標を踏まえてどんな子の育ってほしいかの共通理解を深めていく。
- ・今まで以上に、園周辺の自然環境についての理解を深め、自然環境を活用した保育を計画し実行する。
- ・異年齢児とのかかわりが多くもてるようなあそびや時間の持ち方を工夫する。
- ・幼保小接続のため、小学校教諭との情報交換や交流を深めていく。
- ・働き方改革という点での業務の見直しを継続し、有給休暇の積極的取得等、職員自身の意識改革を引き続き進めていく。

◎職員間の連携と安全管理

- ・園全体で情報を共有する場が取れなかった。勤務時間があわないことを踏まえた対応を考えていく。
- ・担任と補助教諭、補助教諭同士の話し合いの場を設けるように心がけてきたが、時期によっては持てないこともあった。確実にとれるように調整していくことはもちろんであるが、取れないときの代替方法を考えていきたい。また、学年を担当する職員全員で月案や週案の共有を進めていきたい。
- ・預かり保育で残る子が増えていることを踏まえ、保育時間中で気になることがあった場合、預かり担当職員とも情報を共有する。
- ・ヒヤリハット事例を共有しながら、安全管理についての意識をより高める。特に、バス乗車についての情報を確実にするための方策を確立していく。

◎保護者支援

- ・園を訪れる機会が少ない保護者との関りが円滑にできるように、工夫し改善していく。
- ・働く保護者が増えてきていることで、参観会や各種行事の開催時期や回数などの検討を進めていきたい。また、父母の会の活動についても検討していくことが必要と考える。
- ・コロナ禍での子育てで不安が大きい保護者に対する支援は、今まで以上に丁寧に行っていく必要がある。今までとは異なる環境で成長してきた子どもたちやその保護者にとって、園が2歳児保育の発信拠点となる重要性は高いと考える。よって、地域の子育て支援については、ニーズを探りつつ、園でできることを探していきたい。